

平成30年度広葉樹等侵入状況調査結果

1 調査地の概要

所在地：加賀郡吉備中央町高富字ワカバヤシヤマ地内

樹種・林齢：ヒノキ 47年生

主な施業履歴：平成18年 列状間伐（3残3伐）（1,400本/ha→700本/ha）

2 調査区の設置と調査方法

列状間伐区(間伐区)とヒノキ残存区(残存区)それぞれに調査区を設定(図-1)し、階層(図-2)に分けて広葉樹の樹種ごとの生育本数調査及びヒノキ造林木の樹高、胸高直径、クローネ幅の測定を行った。

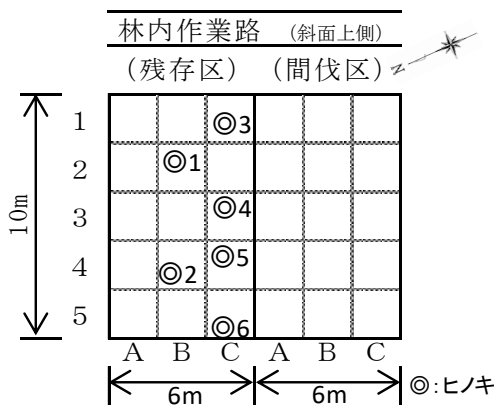


図-1 調査区画図

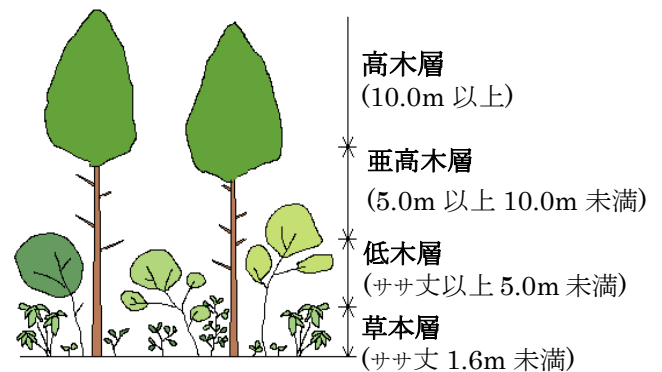


図-2 調査地模式図

3 広葉樹の侵入状況

間伐区におけるササ丈(約1.6m)以上の高木、亜高木、低木の平均樹高、本数を図-3、4に示す。

間伐区における平均樹高は、平成26年と比較して高木性、亜高木性樹種が50cm以上伸びたが、低木はほとんど伸びなかった。

生育本数は間伐区が110本、残存区が93本と間伐区の方が多く高木が少なかった。また、間伐区では平成26年と比較して全ての階層で本数が増加している。

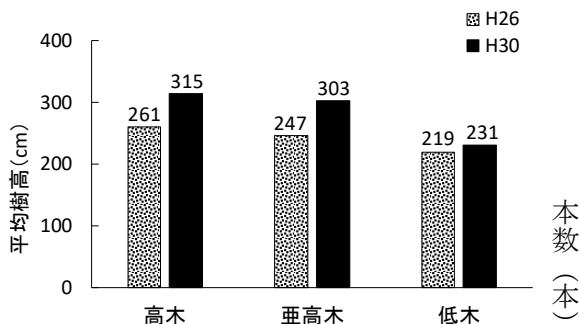


図-3 間伐区の樹高平均値

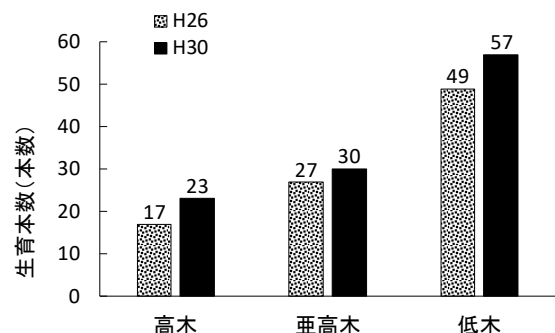


図-4 間伐区の生育本数

4 ヒノキ造林木の生育状況調査結果

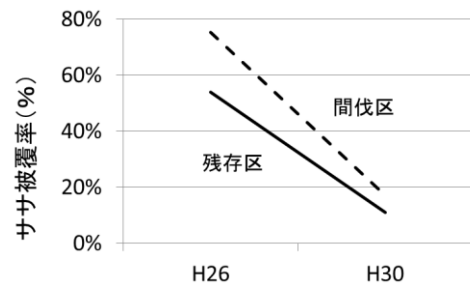
ヒノキ造林木は樹高、胸高直径、クローネ幅ともに成長を続けている（表－1）。

表－1 ヒノキ造林木の生育状況（残存木6本の平均値）

	H20	H21	H22	H26	H30
樹高 (m)	14.4	14.7	14.8	15.1	16.2
胸高直径 (cm)	21.9	21.9	22.1	23.2	25.9
クローネ幅 (m)	2.0	2.0	2.1	2.3	2.4

5 ササ類の被覆率調査結果

ササの被覆率はかなり減少しており、間伐区と残存区ともに20%以下まで下がっていた。



図－5 ササの被覆率の推移

6 現地写真



間伐区



残存区

7 考察

低木層以上の樹木については、種数、生育本数は間伐区が多かった。高木性樹種は間伐区で23本（3,833本/ha）、最大樹高は560cm、残存区で20本（1,667本/ha）、最大樹高は700cmに達していた。また、平成26年の調査と比べて両区ともに生育本数が増加していた。

有用広葉樹では、クリとヤマザクラの300cmを超える個体が間伐区と残存区ともに順調に大きくなっている。特にクリは平成26年の調査と比べて3個体が約200cm成長しており、今後の成長が期待できる。